

令和4年度 第1回秋田県埋蔵文化財センター運営協議会  
【概要・要旨】

令和4年度 秋田県埋蔵文化財センター運営協議会概要

名 称	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会
設置根拠	秋田県埋蔵文化財センター運営協議会規定
設置目的	秋田埋蔵文化財センターの適正な運営と円滑な事業の推進を図るため
委員構成	委員長1名 副委員長1名 委員8名 計10名（うち女性委員2名） ※ 定数10名以内
委員任期	2年間：令和3年4月1日から令和5年3月31日まで
第1回	令和4年6月16日 14:00～15:30 埋蔵文化財センター第1研修室

# 令和4年度 第1回秋田県埋蔵文化財センター一運営協議会 要旨

1 日 時：令和4年6月16日(木) 14:00～15:30

2 場 所：秋田県埋蔵文化財センター 第1研修室

## 3 出席者

### 委員：8名

小松 正夫	委員長	(前秋田考古学協会会長)
栗林 靖雄	副委員長	(美郷町立六郷小学校校長)
金子 徹章	委員	(美郷町立千畑小学校校長)
北野 悟	委員	(仙北地域振興局総務企画部地域企画課課長)
小坂 靖尚	委員	(横手市立山内小学校校長)
佐々木淳一	委員	(柵の案内人 大仙市ほたるの会会員)
菅原 和仁	委員	(大仙市立高梨小学校校長)
渡部 育子	委員	(国立大学法人秋田大学名誉教授)

### ※欠席者：2名

栗谷川 学	委員	(南教育事務所仙北出張所所長)
山崎 裕子	委員	(山崎ダイキャスト株式会社取締役管理部長)

### 事務局：8名

磯村 亨	所長(兼 払田柵跡調査事務所所長)
佐藤 三雄	副所長
川本健太郎	副主幹(兼) 総務班長
村上 義直	副主幹(兼) 調査班長
袴田 道郎	主任文化財専門員(兼) 中央調査班長
吉川耕太郎	副主幹(兼) 資料管理活用班長
谷地 薫	(兼) 文化財主査(本務 払田柵跡調査事務所調査班長)
堀川 昌英	学芸主事

## 4 協議内容

### (1) 令和3年度事業報告

- ① 令和3年度 事業報告(調査関係)
- ② 令和3年度 事業報告(活用・普及関係)
- ③ 令和3年度 各種活用事業別参加者数の推移
- ④ 令和3年度 学校の利用状況
- ⑤ (参考) 令和3年度 払田柵跡調査事務所 調査成果の普及と関連活動

### (2) 令和4年度事業計画

- ① 令和4年度 発掘調査・整理、確認調査一覧
- ② 令和4年度 活用普及事業計画
- ③ 令和4年度 払田柵跡調査事務所 事業計画

### (3) あきた埋文利用拡大についての提言

## 5 委員からの御意見・御提言(抜粋)

- ・学校の利用状況を見ると、コロナ禍の影響もあり、特に小学校の利用は多いが、これらの学校は固定化しているのではないか。また、中学校や高校の利用についても検討が必要ではないか。県南地区では、大仙仙北美郷地区以外の横手地域、湯沢雄勝は、R3業績資料を見る限りでは利用実績が少ないので、地域を越えた利用の在り方もあるのではないか。地域性や年齢について検討してほしい。
- ・コロナ禍で県外への教育旅行が難しいようで、県内での教育旅行がここ最近頻繁に行われているので、教育旅行との関わりも検討してほしい。センターも修学旅行と組み合わせて利用する方向もあるのではないか。
- ・プラタモリ的に歴史と地理との融合やフィールドワークも面白いと思う。
- ・払田柵跡も含めて埋蔵文化財センターについて地元にもこういう所(施設)があるということを訪問した際に話していただければ、子供たちは自分の地域に誇りを持って生きていくことができると思う。
- ・埋蔵文化財センターは県内で唯一の埋蔵文化財の調査・研究機関で考古学の専門家が多くいるところはここだけである。調査・研究機関として埋蔵文化財センターが全県をカバーしてほしい。
- ・増え続ける出土文化財の整理・保存について、経費がかかり、場所も必要にはなるが、将来的にはAIの活用も見据え、引き続き十分な予算措置の継続をお願いしたい。
- ・来年度払田柵跡調査50周年記念の大きな節目となる。秋田県立博物館での展示ということで、日本歴史学会で毎月刊行している「日本歴史」に全国の博物館の展示として掲載されるので全国的な広報活動になり非常によかったと思う。50周年記念事業では発掘調査をして何が分かるかを重視し、考古学で幾つかの考察をしていただければと思う。払田柵跡の関連遺跡調査で、猫袋遺跡周辺や駅路が秋田までどうつながったかということになると払田柵跡から秋田城までの間のつながりもあるので、そこも含めて来年の展示を楽しみにしている。
- ・魁新報の「土に聴け」のコラムをブックレットという形で、出版してもらうよう働きかけてはどうか。できるだけお金のかからない方法で。これを払田柵跡50周年の記念事業としてはどうか。
- ・埋蔵文化財センターを利用した学校であれば来年もということになるが、まだ利用していない学校ではそのよさになかなか気づいていないということもある。この点については、社会科部会に広めていきたい。
- ・教育旅行についても新型コロナウイルスの関係で県内の旅行が増えた。秋田にもいいところがたくさんあり、県外に出なくても満足いく教育旅行ができている。その中に埋蔵文化財センターが関係してくることは十分に可能であり、また県外の教育旅行の受入れで活用できることも可能ではないか。
- ・美郷町の5・6年生対象の職場体験活動を再開するという連絡があり、近隣の施設でもあり、教育委員会に働きかけてそのメニューの中にセンターの活動も含めてもらえば、子供たちが触れる機会になっていくと思う。興味・関心のある子供たちが参加できるようにいろいろな事業を学校に紹介してもらえればと思う。
- ・令和3年度実績資料をみると、年間をとおして相当な事業を行っていることになる。人員は限られているが、これだけの事業を行っていることに対して頭が下がる。事業や文化財に興味を持っている一般の方がたくさんいるので、今後も感染に気を配りながらできるだけ今まで以上に事業を計画していただきたい。

## 6 センターより（抜粋）：

- ・様々な立場から御意見をいただいた。いただいた御意見はこの後まとめ、今年度の事業に反映していきたいと思う。第2回運営協議会を令和5年2月に予定している。今回の御意見を反映させてつくる来年度予算の事業内容や今年度事業について報告させていただきたい。併せて委員の皆様には次の協議会でも御提言等をいただきたい。長時間にわたる協議や貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。